

## ハスの花を踏む

金龍寺の十一面観世音菩薩は、大和長谷寺<sup>はまでら</sup>のご分身です。長谷寺の本堂際に聳えていた楠の古木で彫られた大観音です。高さ七・六<sup>尺</sup>、光背が九<sup>尺</sup>、名古屋一を誇ります。観音さまと一心同体になるために、大観音の足元で瞑想をしたり、歩いたりすることができます。

ハスの花は観音さまの象徴です。内陣に蓮華模様の敷石を並べ、四隅に四天王の持ち物が石に刻まれています。十一面観音のご真言「オン マカ キャロニキャ ソワカ」を唱えながら、蓮華の敷石を裸足で踏む<sup>ふだんねんじゅぎょうどう</sup>「不断念誦行道」を毎年一回行なっています。

この行道は、参加者と交代しながら、一昼夜とぎれることなく巡り歩きます。僧侶も十一面観音の秘法を祈り続ける僧俗一体の不眠不休の修行です。

ご本尊十一面観音さまの足元に至るには、本堂床下の「内陣くぐり道」を通ります。真っ暗な通路八<sup>尺</sup>を赤ちゃんのようにはっていきますと、途中に「三面大黒天」が祀られています。薄明かりの大黒天に手を合わせ、さらに進めば大観音が輝く真下に生まれます。

私たちは仏の性質を秘めて生まれます。これを「仏性<sup>ぶつしょう</sup>」といいます。つまらない自分だと思っているあなたにも、私を苦しめるあの人にも、みんな仏さまの性質が宿されています。心に眠っている仏性に気づくために、素足で蓮華の上を踏み歩くわけです。つぼみの、あなたの生活にハスの花をひらかせていただきたいと願っています。

心の充実をはかりたい人も、悩みをかかえている人も、何の願いもない人も、大観音の息がかかる足元で歩きながら、一心にご真言を唱えてくだされば、不思議な時空間を過ごすことができます。「今までに経験したことがない有難さを感じた」、「本当にお参りをしたという気分になった」、「観音さまを身近に感じた」、「三十分は短かった」、「はだしが気持ちよかった」などの感想が寄せられています。

この修行は三十分単位で交代します。連続して巡る人もおられます。毎年、百数十名の参加があります。人々がまだ寝静まっている寅の刻(午前三時～四時)は「花水<sup>けすい</sup>」といって、水に花が咲くといわれています。念誦行道に参加される方は、金龍寺本堂の時間割表に、ご都合のよい時間帯を選んであなたの名前を記入してください。参加者の芳名を書いた御札を準備いたします。

ふだんねんじゅぎょうどう  
不断念誦行道

10月24日9時～25日9時